

なりわい

伐る 出す 流す

一本ぞりで材木をおろす。
一本ぞりに伐り出した材木をつけ、薪木でかじ
を削りながら雪の斜面を下りおろす。雪が後
ろで介添える。

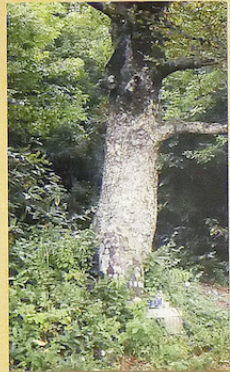


旧中沢分校前の山鹿神碑

山と生きる人々にとって、薪木・木炭・木工
品などにするさまざまな木を伐り、森から運び
出す営みは、すべてのなりわいの土壌をなす。
山の村ゆえに豊かな木材資源に恵まれている
丹波は、それを大胆に運び出すことは、山の
村ゆえに難しい。黒も通えない悪路だっ
た。ただ一つの手足だけが荒川・花川の流れ
を渡った水遣りだ。

冬場、山に入っていく木を伐り薪木し、
山から川を流してきて薪炭近くの河原にす
たん降りて乾かす。五月に薪炭水で地下水した
川に入れ、薪炭水入量器で一旦しからあして
いき、下流の河原、一の段で揚げて買い手に
引き渡す。流していった薪炭水によって、
井戸ではわずかに暖かい水がながれ
ていた。

この水遣りは、仙臺の時代には薪炭の需要と
して行われており、戦後すぐ三城寺原薪炭場
の工場で薪炭を流れなくなるまで続いた。



桑沼への山道に立つ山鹿神



山鹿神石の裏に「流木か夏さる谷文



山仕事、ノコ類



一本ゾリをかつび斜面をよぼる



木を伐りたどり



山に入る



一本ゾリ



一本ゾリに材木をつける



枝をよぼる



ナタでほらう



二本ゾリ



一本ゾリで材木をおろす



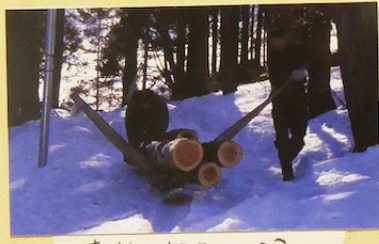
伐いた木を田刈りにする



ノコで切る



二本ゾリ



チェーンソーを使う



荒川の downstream 花川(白旗町)



チェーンソーの目立

